

参加学生の感想

海外フィールドワーク／スウェーデン研修を終えて

- スウェーデン研修では、環境推進国と言われるその背景について、身をもって学ぶことができた。廃棄物や資源の再利用、モビリティ分野の日本との違いなど、可視化された環境への配慮に刺激され、持続可能な社会の理想像をみることができた。また、現地の方とのディスカッションを通じて知った、互いの意見をリスペクトする精神は、有意義な意見交換に繋がることを体感した。同期9人と高め合い、自身にとっても間違いなく成長する好機となった。
- この研修を通じて、今後の世界を見通しアクションすることの重要性を実感した。社会の中の政策や技術、それに関わる人々の在り方を身近で観察することが出来た。それに加えて、日本とは異なる働き方や生き方を肌で感じ、自分自身の価値観が変わるきっかけとなった。渡航が難しい状況下でしたが、このような経験が出来たことをありがたく思います。
- スウェーデンでは環境問題について政治家や自治体、企業、NGO、市民がそれぞれ考えを持ち、相互に意識を高め合って取り組んでいる。今後はそういった社会の創造に必要な要素や仕組み、仕掛けについてより知識や考えを深め、貢献したいと考えている。
- スウェーデンが取り組んでいる環境政策と現状を現地の大学の先生や専門家の方々から直接お話を伺う機会をたくさんいただいた。課題を解決していくためには先進的な政策を学び、「なぜそのようなことが起こっているのか」を意識して分析し、深く考え抜いていく姿勢がとても大切であると学ぶことができた。
- 日本とスウェーデンでは様々な点で相違が見られたと感じた。特に今回は環境問題について学ぶべく様々な視察先を訪れました。そこでは日本の仕組みとスウェーデンの仕組みのメリットデメリットについて、そして今後の世界の目標を達成するためには何が必要なのかを考えるきっかけになったと考えている。
- スウェーデン研修を通して感じたのは、日本とスウェーデンの国民の環境配慮への意識に大差があるというよりは、人々にそのような行動をさせる仕組みが社会的に整っていること、目指す社会のため自分の意見を反映させようと動く人が多いことが大きな違いなのではないかという点であった。
- 私は今回の研修でスウェーデンの課題を認識できたことが一番の収穫であると感じる。一見便利なe-bikeも道端に放置されていたり、選挙では環境問題にあまり触れていなかったりと、スウェーデンにも課題があり、必ずしも日本より優れているとは限らないことに研修を通して改めて気付かされた。